

はじめに

武蔵野市はかつて、日本の軍用機のエンジンを製作していた中島飛行機武蔵製作所があったところでした。私の住まいである延命寺は、この工場の中央部より南側二百メートルの場所にあります。

昭和十九年十一月二十四日から始まり、二十年八月八日の最後の空襲の日まで、繰り返し返される米軍のB 29爆撃機からの爆弾の嵐をくぐりぬけ逃げ回り、目の当たりにしてきました。一年たらずの空襲体験ですが、非常に長く感じました。子供の頃の恐怖と悲しみの体験は、今でも絶対に忘れることは出来ません。

戦後六十五年を迎え、今や戦争を知らない人たちが大半となりました。二度と戦争の悲劇を繰り返さないためにも、一人でも多くの方に戦争体験を語ってもらい記録に残していきたいと思います。貴重な体験談の中から平和の大切さを学び取り、平和に対する努力と犠牲者の慰霊を行っていききたいと思います。

戦争体験者のご高齢となりました。思い出すのもいやな体験を、涙ながらにお話し頂いた多くの方々へ感謝致します。特に病に侵され苦痛のさなか、渾身の力をふりしぼり、長時間お話し頂いた岡本勇さんが、一カ月後故人となられ

ました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

私たち実行委員会のメンバーは真摯に慎重に編集を行いました。ありがとうございました。

武蔵野市非核都市宣言平和事業実行委員会

委員長 中里 崇亮

今年、わが国は終戦後六十五年を迎えます。しかし、今年お、世界各地で起きている国際紛争やテロにより、多くの市民が犠牲となっている現状に心を痛めます。

武蔵野市には、戦時中、ゼロ戦のエンジンを製造する中島飛行機武蔵製作所が立地し、国内における主要な軍需工場であったことから、東京圏でB 29による最初の空襲を受けました。昭和十九（一九四四）年十一月二十四日正午過ぎのことでした。この最初の空襲で、五十七名もの犠牲者が出ました。中には、勤労学生も含まれていました。以後、終戦までに九回の空襲で、二百名余りの尊い命が犠牲になりました。

このような惨事が二度と繰り返されてはなりません。そのためにも、戦争の歴史をしっかりと受け継ぎ、戦争の悲

惨さと平和の大切さを記録し、後世に伝えていく必要が
あります。

今回、この「武蔵野から伝える戦争体験記録集」で体験
を語っていただいた八十歳前後の皆さんは、六十五年前と
いえば今の中学・高校生と同じ世代でした。私は、今年の
中学校の卒業式の祝辞で、この戦争体験集の意義を話しま
した。卒業生の皆さんが、しっかりと受け止めてくれたら
幸いです。そして、彼らが、六十五年後の未来においても、
武蔵野市も、日本も平和を維持し、そして恒久平和の世界
が実現されていることを願いたいと思います。

結びに、本戦争体験記録集に寄稿いただいた皆さん、そ
して編集にご協力をいただいた皆さんにお礼申し上げます。
戦争のない平和な未来を築いていきましょう。

武蔵野市長

邑上 守正